

キイトルーダ+FP療法を受けられる方へ

担当薬剤師

科 ID: _____ 様

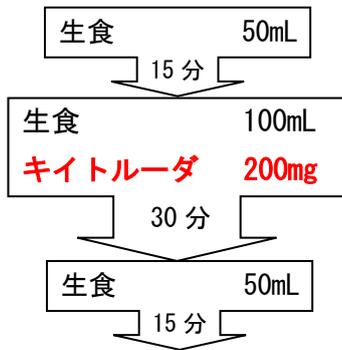
【投与スケジュール】

	1	2	3	4	5	6-21 日目
キイトルーダ	○					
フルオロウラシル	○	○	○	○	○	
シスプラチン	○					

- ☆ 3週間毎に繰り返します。
- ☆ 検査の結果で投与スケジュールや投与量が変更になる場合があります。
- ☆ 6コース行います。

【点滴内容】

《1日目》



FP療法へ

- アロキシ：吐き気を抑える薬です。
- アロカリス：吐き気を抑える薬です。
- デキサート：吐き気やアレルギー症状を抑える薬です。

硫酸 Mg：腎臓を保護する薬です。

ラシックス：尿を出し、抗がん剤による腎障害を防ぐ薬です。

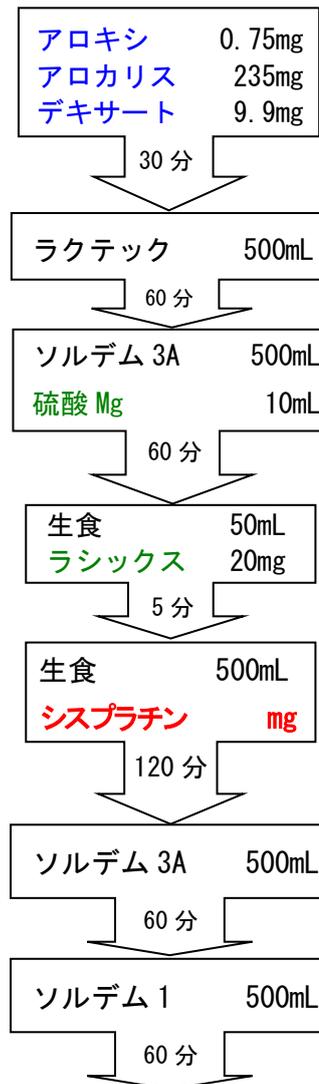
キイトルーダ
フルオロウラシル
シスプラチン } : がん細胞の増殖を抑える薬です。



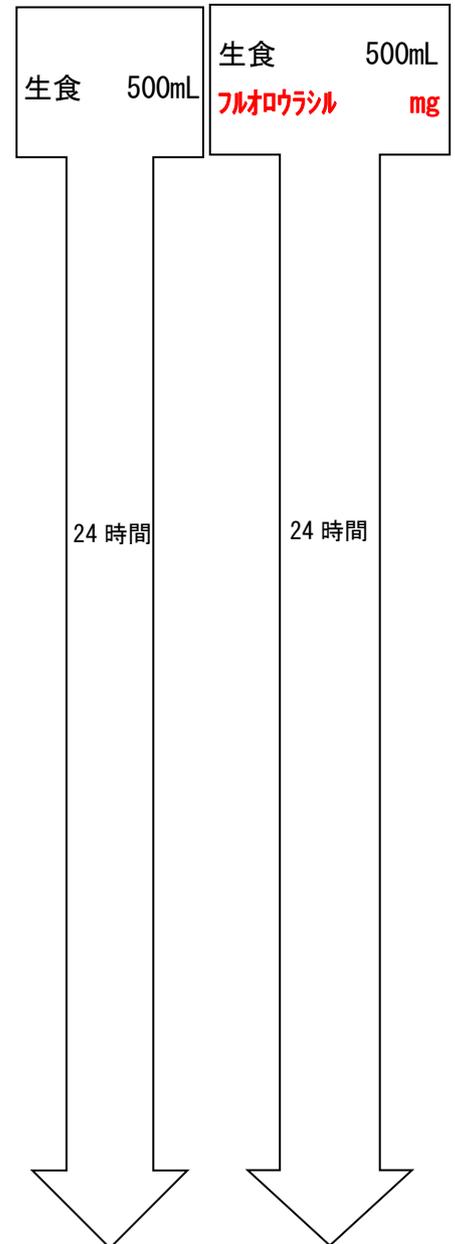
キイトルーダ終了後開始

《1日目》

～側管より投与～



《1～5日目》



【主な副作用と対策】

アナフィラキシー様症状：お薬を投与することで、アレルギーに似た症状が発現することがあります。息がしにくい、胸が締め付けられる、といった症状がある場合にはすぐに知らせてください。

インフュージョン・リアクション：キイトルーダの点滴を始めてから、発熱・悪寒・吐き気・頭痛・疼痛・痒み・発疹・咳・胸の重苦しさなどのアレルギーに似た症状が起こることがあります。違和感があるようでしたら知らせてください。

血管外漏出：針の刺入部の皮膚が赤くなる・腫れる・痛い・熱っぽい・かゆみが出るなどの症状が現れる場合があります。異常を感じたらすぐに知らせてください。

白血球減少：投与後7～14日頃に最も減少すると言われています。
白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、
風邪などの感染症を起こしやすくなりますので、
うがい・手洗い・マスクといった感染予防を心がけましょう。



赤血球減少：血液の赤い成分が減少することで、めまいやふらつき、疲れやすくなるといった副作用が起こることがあります。十分な休息をとりましょう。

血小板減少：投与後7～21日頃に最も減少すると言われています。原因不明のあざ・鼻血・歯茎からの出血・頭痛などが起こることがあります。出血しやすくなりますので、怪我や転倒には注意してください。

食欲不振・悪心・嘔吐：投与後～7日ほど現れることがあります。あらかじめ吐き気止めを投与していますが他の薬もありますのでつらい時には申し出てください。また、食事はにの少ないもの・冷たいもの・食べられるものを少しずつ、食べられる分だけ摂取するようにしましょう。



脱毛：脱毛が起こることがあります(5%程度)。投与後14～21日経つと抜け始めます。治療終了後6ヶ月ほどで生えそろってきます。

便秘：水分を摂取したり、お腹のマッサージをしましょう。
下剤や便を軟らかくする薬も使います。



下痢：下痢をしている間は脱水にならないように水分を摂取しましょう。

口内炎：食後に歯磨きをするなど、口の中は清潔に保っておきましょう。

味覚障害：食べ物の味が変わって感じる場合があります。治療が終了すれば徐々に治ります。



色素沈着・爪の変形：皮膚や爪の色が着色したり、爪が変形してしまうことがあります。
長い時間直射日光にあたらないようにしましょう。
治療が終了すれば徐々に元に戻ります。



手足症候群：手足がヒリヒリ・チクチクする、赤く腫れる、皮膚にひび割れや水疱ができ、痛みが生じる事があります。刺激の少ないハンドクリームや保湿剤を使用し、手足の乾燥を防ぎましょう。

難聴・耳鳴り：高音域の声や音が聞こえにくかったり、耳鳴りがすることがあります。
悪化していくようでしたらお知らせください。



末梢神経障害：手足がしびれたり、痛みがでることがあります。ボタンがかけにくい・字が書きにくいといった症状が出てくるようでしたらお知らせください。

しゃっくり：しゃっくりが出る場合があります。ひどく続いて辛いときにはお薬を使うこともありますので、相談してください。

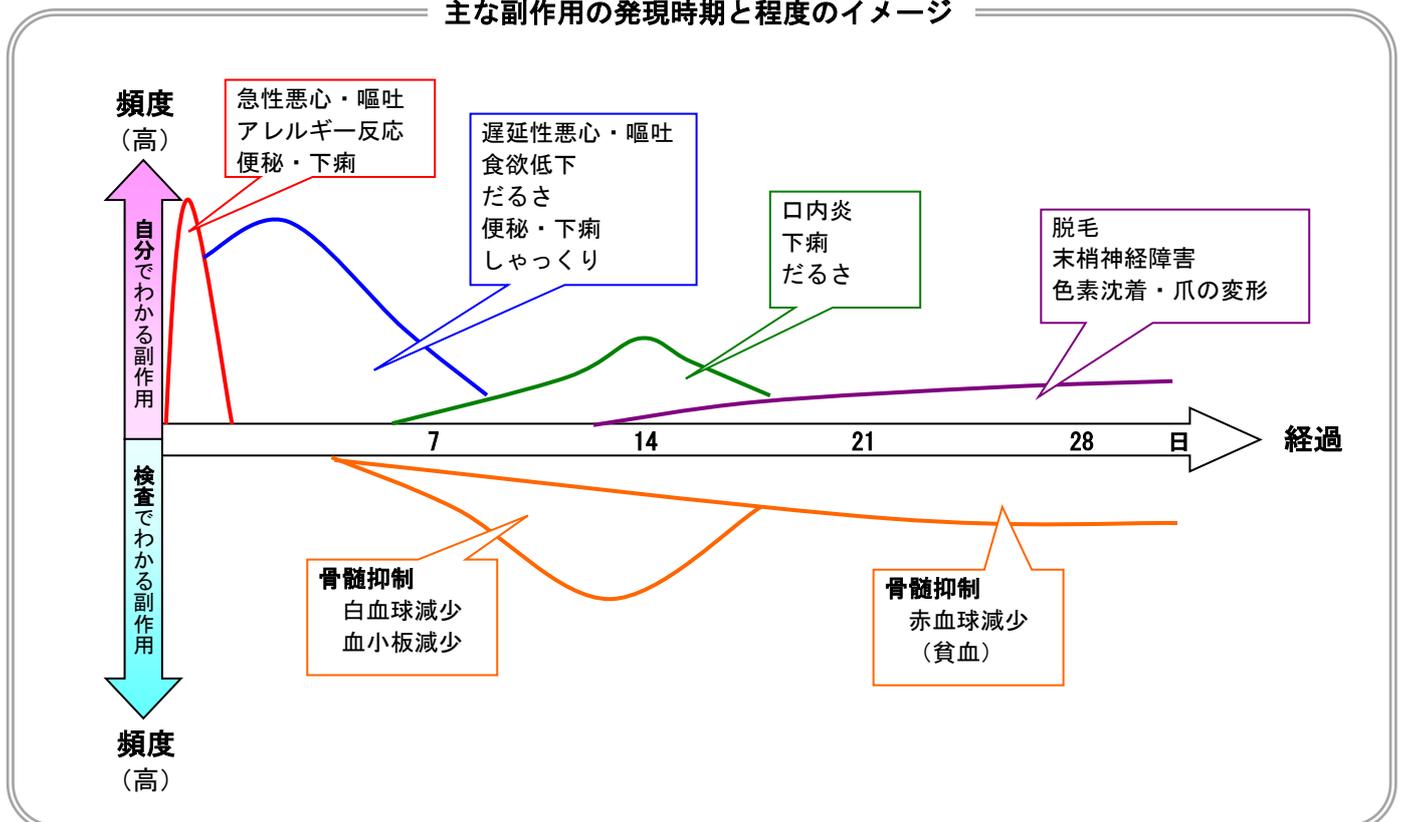
腎機能・肝機能障害：薬の影響で腎臓や肝臓に影響が出る場合があります。

心障害：薬の影響で心臓に負担がかかる場合があります。普段より息が切れる、動悸がする、締め付けられるような胸の痛みといった症状がある場合には知らせてください。

間質性肺炎：非常に稀ですが、薬の影響で肺炎が起こることがあります。
咳・発熱・息切れといった症状が続くようでしたらお知らせください。



主な副作用の発現時期と程度のイメージ



《免疫関連有害事象について》

キイトルーダには稀ですが、免疫に関連する副作用が発現することがあります。

主な副作用と自覚症状は下記の通りです。

副作用の頻度は低いですが、放っておくと重症化するため、ご自身でも体調の変化に注意し、いつもと違う症状がある場合には医師や医療スタッフに相談してください。

また、これらの副作用は治療を中止した後でも発現することがあるので注意してください。

☆この説明書と合わせて、メーカー作成のパンフレットも参考にしてください。



間質性肺炎：息切れ、呼吸が苦しい、乾いた咳、胸の痛み、発熱など



大腸炎・重度の下痢：下痢、排便回数の増加、血便、腹痛、吐き気・嘔吐など



肝障害・劇症肝炎：だるさ、かゆみ、皮膚や白眼が黄色くなる、食欲不振、発熱、腹痛、尿の色が濃くなるなど



I型糖尿病：だるさ、体重減少、口が渇く、多飲、多尿など

重症筋無力症：まぶたが重い、物が二重に見える、手足に力が入らない、顔の筋肉が動かしにくい、食べ物が飲み込みにくいなど

筋炎・横紋筋融解症：だるさ、筋肉痛、手足に力が入らない、尿の色が赤褐色になる、発熱など

甲状腺機能障害：だるさ、むくみ、寒がり、体重増加、便秘など(機能低下)
汗をかきやすい、体重減少、手指のふるえ、脈の乱れなど(機能亢進)

下垂体機能障害：頭痛、だるさ、見えにくい、のどが渇く、めまい、排尿回数や尿量の増加など

副腎障害：だるさ、吐き気・嘔吐、食欲不振、意識が薄れる、判断力の低下など

神経障害・脳炎：手足のしびれや痛み、運動や感覚のまひ、失神、精神状態に変化がある、だるさなど

腎障害：むくみ、尿量減少、疲れやすい、貧血、血尿など



重度の皮膚障害：全身に赤い斑点や水ぶくれが出る、ひどい口内炎、まぶたや眼の充血、粘膜のただれ、発熱など



重篤な血液障害：歯茎や鼻からの出血、皮下出血、息切れ、だるさ、かゆみ、発熱など

心血管系障害：発熱、倦怠感、胸痛、息切れ、筋肉痛、むくみ、局所の痛み・熱感



膝炎：腹痛、背中への痛み、吐き気・嘔吐など

眼障害：見えにくい、まぶしく感じる、虫が飛んでいるように見えるなど



【内服薬について】

*** この治療を受けられる方には、吐き気対策として内服薬が処方されます。**

□ デカドロン(4) : 1日2回 1回1錠 朝・昼食後
シスプラチン投与翌日の朝から3日間内服



【日常生活で注意していただきたいこと】

- ① 抗がん薬は投与後しばらくの間、尿や便に残ります。抗がん薬投与後2日間(48時間)は、トイレのふたを閉めて水を2回流しましょう。男性の方は尿の飛び散りを防ぐために座って排尿しましょう。
- ② ご家族が吐物や排泄物を処理する場合には必ず手袋をしましょう。汚染したゴミはビニール袋に入れて口元をしっかりと閉じてから廃棄してください。



副作用の全てが現れるわけではありません。

また、これら以外の副作用が現れる場合もあります。

気になる症状がありましたら必ず医師・薬剤師・看護師にご相談ください。

この説明書はかかりつけ医やかかりつけ薬局薬剤師にもお見せください。



お薬に関する相談先

北信総合病院 (代表)0269-22-2151
薬剤部 医薬品情報管理室 内線 2530

